

校内研究授業のまとめ

研究主題

自分を見つめ、他者と関わり合い、より深くより広く、考える児童の育成

～道徳科の授業づくりを通して～

講師 大阪教育大学名誉教授 藤永 芳純 先生

令和2年11月5日(木)13:30～16:40

研究授業

○5校時 道徳科授業(第1学年)

「かぼちゃのつる」A－3節度, 節制

指導者 教諭

○6校時 道徳科授業(第3・4学年)

「まどガラスと魚」A－2正直, 誠実

指導者 教諭

指導講話のまとめ

○道徳科授業(第1学年)について

- ・原典「日本イソップ」
- ・主人公…かぼちゃ
- ・道徳的変容…わがままな行動からひどい目にあったのは、周りの人の忠告を聞かなかったり、周りの人の気持ちを考えなかったりしたということに気づく。
- ・山場…トラックにひかれてつるが切られる場面。「いたいよう、いたいよう。ああん、ああん。」かぼちゃはぼろぼろぼろぼろなみだをこぼしてなきました。
- ・助言者…トラックにひかれて、つるが切れたこと。かぼちゃの反省・後悔・謝罪。
- ・中心発問…かぼちゃは、トラックにつるを切られて、ぼろぼろ涙を流して泣きながら、どんな気持ちだったでしょう。
- ・板書について…つる(伸びる)(切れる)がよかった。
- ・今日の授業の流れ(生活→資料→生活)…国語と道徳の違い
- ・わがままや自分勝手はみんなあるが、みんな学年が上がるごとに言わなくなる。1・2年生

なら使えるパターン。

- ・授業への導入…「起立、これから〇〇を始めます。礼。お願いします。」

教材への導入(必要なら)

道徳的価値への導入(必要なら)

- ・道徳で決意表明をさせる→がんばります！やります！→これだと、授業の価値を自分でおしめている。
- ・キーワードを一番最初に定義しておくとおぼれないで授業が進む。
- ・教科書を使う。その場に応じて。
- ・社会性…自分勝手は一人だけの時にはいいこと。生きていくためには。思いのままに自分を伸ばすのは善。かぼちゃは一人で生きているのではない。共生している。
- ・最後「何の涙？」とたずねれば、どう答えたか？いたい？くやしい？→深く読む手がかり。
- ・身を慎むこと、我慢はなぜ必要か。道徳性としての社会性の獲得。セルフコントロールの大切さ。他者の迷惑を考えない。社会性の重要性。個人対社会。

○道徳科授業(第3・4学年)について

- ・主人公…千一郎。
- ・道徳的変容 千一郎は、正直に言ったら、すっきりした。
- ・助言者 近所のお姉さん。近所のお姉さんが、ていねいにあやまる姿を見たこと。
- ・中心発問…お姉さんの行動を見て、千一郎はどんなことに気がついたのだろう。
- ・線を定規でひく。
- ・短冊(準備物)があると時間短縮。
- ・心情の問題としては「もやもや」→「すっきり」ただしすっきりしなくてもあやまるべき。
- ・子どもが納得する授業の終わり方。納得していないと、監視の人がいるといい子だが…になる。

○全体について

- ・1年も3・4年生も定番の教材。よく発言できていた。

○前回(9月)の授業の課題から、今回・これからの授業へ。

- ・他教科・日常生活とつなげる。(仕組む。)
- ・指導者が教材を読み、内容理解させる。
- ・練り合い場面(子どもたちが自分から進んで発表し、つなぎ発問へ)…指導者があまり話さない。一人一人の発表をつなげる。
- ・何を学んだか、見て分かる板書づくり(子どもの言葉で)
- ・提示物の工夫。事前準備・教材研究の段階で、子どもが考えたいところはどこか考え、深めるためにどうすればいいかの工夫。
- ・児童アンケートの「自分の考えと友達のことを比べながら、しっかりと考えて自分の考えが深まった」につながる発問、授業づくり。